

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）

科目名：被服学（2022）

2022年度「衣生活論」授業評価・授業研究報告

家政教育・眞鍋 郁代

1. 授業の基本情報・概要

本授業は学校教育教員養成課程中等教育コース家政教育専攻における専門科目であり、家庭科免許取得のための選択必修科目の一つである。この授業を履修した理由について、「授業名」と「シラバスの内容で判断」の回答が半々であった。

本年度の受講学生は、2回生3名、3回生1名の計4名（内訳の詳細：小学校サブコース1回生2名、中等教育家政教育専攻2名）となっている。

本授業では、衣服は人間に最も近い「環境」であり、私たちの自然環境や様々な人工環境への適応を助けていることを理解し、衣服の適切な選択は、人間にとって機能的、心地よい生活を生み出す一方、その選択を誤るとストレスを生じ、生活の質低下、健康障害の原因にもなることから、衣服の選択に当たっては、その適否を、着用する人間の生理・心理の側面から判断することのできる基礎的な知識を習得すること、持続可能な衣生活をテーマにアップサイクルの計画立案と実施する技能を習得し、それらの理解を深めることが、目標となっている。

<授業スケジュール>

1. 快適な衣生活―「感性」「デザイン」―
2. 衣服の快適性―衣服と健康―
3. 衣服の快適性―体温とその調節―
- 4・5. 衣服の快適性―衣服による気候調節―
- 6・7. 衣服の快適性―衣服による気候適応障害の予防と対策―暑熱環境対応・寒冷環境対応
8. 衣服の拘束性と運動機能性
9. 動作に伴う身体変形と衣服の運動機能性
10. 衣服圧の人体影響と衣服における有効利用
11. 持続可能な衣生活のために「繊維の性質を利用したリサイクルを考える」
- 12・13・14. 持続可能な衣生活をテーマとした制作実習
15. 試験・まとめ

2. 学生による授業評価―調査内容について

質問項目は以下の通りである。(1)出席状況、

(2)時間外学習時間、(3)取り組み意欲、(4)履修理由、(5)担当教員の話し方、(6)板書・パワポ等文字の大きさ、(7)発言しやすさ、(8)配布資料、(9)授業に興味関心持てたか、(10)授業に満足できたか、(11)どの程度満足しているか。以上に加えて、「最も印象に残った内容」「初めて知ったこと」「もっと知りたかったこと」についての自由記述を求めた。

3. 【結果】授業アンケートより

出席状況をみると履修者全員がほぼ全出席していた。昨年度までの遠隔対応から授業内容を手直した結果、学習内容が以前よりも増加したが、対面授業形式に戻った今年度においても履修学生は常に興味・関心をもって課題に取り組む姿勢がみられ、例年以上に、意欲の高さを感じられた。

「最も印象に残った内容」として挙げたのは「熱中症の対策方法。」「アップサイクルの制作について。」「衣服内気候について。」などであり、衣服のはたらきを考えるのに適したテーマを選択できたのではないかと考えている。また、「実際に起きた山での遭難事故事例を用いて下さったことで、衣服の選択の大切さをすごく実感できたことがよかった。」との意見もあり、取り上げる事例についてはブラッシュアップし続けたいと考える。「初めて知ったこと」としては、「衣服圧の功罪。」「衣服の快適性についての詳しいことを初めて知った。」「熱中症について、発症原因とか衣服でどうやったら予防できるかなど。」が挙げられた。この授業について、内容過多だったかと危惧した面もあったが「ここまで衣服について意識したことがなかったので、多くの発見があって楽しかったです。」との意見もあり、本学学生にとっては適当であったようである。

最後に「もっと知りたかったこと」としては、についてもっと考えたかった。」「衣服圧の功罪」や「持続可能な衣生活」についてもっと考えたかったという意見があったことから、各学習内容の時間配分について、改善を実施していきたいと考えている。